LAN・デ・ブート ライト

RPC-5LC

■ 取扱説明書 ■

mini LANdeBOOT Light

REMOTE POWER CONTROLLER

明京電機株式会社

ご購入ありがとうございます

LAN・デ・ブート ライト ＲＰＣ-5LC をご購入いただき誠にありがとうございます。

LAN・デ・ブート ライト ＲＰＣ-5LC はネットワーク経由でシステム機器の制御／管理をする電源制御装置です。4 個の 100VAC 電源を個別に遠隔制御／管理でき、またケーブル接続されたシリアル機器とネットワーク経由で通信することもできます。また NTP サーバーに接続することにより、週間スケジューラーとしてもご利用になります。

LAN・デ・ブート ライトが皆様の所有されるネットワークシステムにおいて、有効かつ有用なツールとして機能することを願っております。

この取扱説明書を必ずお読みください。

本書はセットアップ手順と、操作、設置、安全の確保などのための手順が記載されています。

ご使用の前に、必ず本書をお読みください。お読み終わった後も大切に保管してください。

付属品一覧

本製品には次の付属品が同梱されています。必ずご確認ください。

1. 取扱説明書 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1部
2. CD-ROM ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1枚

内 容 ・取扱説明書（PDF ファイル）
・設定ユーティリティソフト・インストールファイル
・制御ユーティリティソフト・インストールファイル
・ネットワーク稼動監視ソフト・インストールファイル
・Acrobat Reader インストールファイル
・ツールソフト（tncom）

3. 保証書 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1部
4. RS232C（クロス）ケーブル ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1本
5. 2P/3P 変換プラグ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1個

安全上のご注意

この取扱説明書での表示では、本装置を安全に正しくお使いいただくために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は以下のようになっています。本文をよくお読みいただき、内容をよくご理解の上、正しくご使用ください。

注意喚起シンボルとシグナル表示の例

警告	誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
注意	誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容、及び物的損害*の発生が想定される内容を示しています。

※物的損害とは家屋家財および家畜ペットにかかわる拡大損害を示します。

図記号の例

分解・改造禁止	⃠は、禁止（してはいけないこと）を示します。 具体的な禁止内容は⃠の中や近くに絵や文章で示します。 左図の場合は「分解・改造の禁止」を示します。
電源プラグを抜く	●は、強制（必ずすること）を示します。 具体的な強制内容は、●の中や近くに絵や文章で示します。左図の場合は「差し込みプラグをコンセントから抜くこと」を示します。

警告

●万一異常が発生したら、電源プラグをすぐに抜く！

煙、変な音、においがするなど、異常状態のまま使用しないでください。火災や感電の原因となります。このようなときは、すぐに電源プラグを抜いてお買い上げの販売店や弊社にお問い合わせください。

電源プラグを抜く

●ＡＣ１００Ｖ（５０または６０Ｈｚ）以外の電源電圧では使用しない

表示された電源電圧（交流１００Ｖ）以外の電圧で使用しないでください。特に１１０Ｖを越える電圧では製品を破壊するおそれがあり、火災の原因となりますので、絶対に接続しないでください。

交流１００Ｖ

●本装置の電源アースあるいはＦＧ端子を接地する

本装置の電源プラグのアースあるいはＦＧ端子を接地してください。
感電や故障の原因となります。

アース接地

●本装置背面のＡＣコンセントは１５Ａまで

本装置背面のＡＣコンセントは、供給できる容量の合計は最大で１５Ａです。合計１５Ａを越えて使用しないでください。火災や故障の原因となります。

最大容量１５Ａまで

●たこ足配線をしない

本装置の電源は、家庭用電源コンセントから直接取ってください。
本装置のＡＣコンセントに、電源用テーブルタップなどを接続して使用しないでください。火災や故障の原因となります。

たこ足配線禁止

●電源コードを大切に

コードに重いものを載せたり、熱器具に近づけたりしないでください。コードが損傷し火災や感電、故障の原因となります。また、コードを 加工したり無理に曲げたり引っ張ったりすることも、火災や感電の原因となるのでおやめください。コードが傷んだ場合はお買い上げの販売店、または弊社までご相談ください。

コードを乱暴に扱わない

●極めて高い信頼性や安全性が必要とされる機器に接続しない

本装置は通信機器やＡＶ機器を接続する用途に設計されています。人命に直接関わる医療機器などの極めて高い信頼性または安全性が必要とされる機器には接続しないでください。

通信機器等用

警告

●ぬれた手で本装置や電源プラグにさわらない

ぬれた手で本装置の操作を行なわないでください。ぬれた手で電源プラグを抜いたり、差し込んだりしないでください。 感電の原因となることがあります。

ぬれた手でさわらない

●本装置の上や近くに水などの液体を置かない

本装置に水などの液体が入った場合、火災，感電，故障などの原因になります。

液体を近くに置かない

●異物を入れない

製品の通気孔などに、金属類や燃えやすいものが入ると、火災や感電の原因となります。万一異物が入った場合はすぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いて、お買い上げの販売店、または弊社までご相談ください。

内部に異物を入れない

●ヘアースプレーなどの可燃物を本装置の上や近くに置いたり、使用したりしない

スイッチの火花などで引火して火災の原因になることがあります。

可燃物禁止

●雷が鳴り出したら製品や電源プラグに触れない

感電の原因となります。本装置には、落雷用保護回路がありますが、ＦＧ端子を接地して、アースされた状態でないと十分な効果を発揮しませんのでご注意ください。

雷のときは、触らない

●分解したり改造したりしない

内部には電圧の高い部分がありますので、カバーをはずして内部の部品に触ったり、製品を改造したりしないでください。火災や感電、故障の原因となります。

分解・改造禁止

●製品を落したりして破損した場合は

そのまま使用すると火災や感電、故障の原因となります。電源プラグをコンセントから抜き、背面のコネクタをすべて抜いて、お買い上げの販売店、または弊社までお問い合わせください。

電源プラグを抜く

⚠注意

●電源プラグを抜くときは電源コードを引っ張らない

電源プラグを抜くときは必ずプラグを持って抜いてください。
コードを引っ張って抜くと傷がつき、火災や感電の原因となることがあります。

コードを引っ張らない

●通気孔をふさがない

製品には、内部の温度上昇を防ぐために通気孔が開けられています。壁際の設置は、通気孔から５ｃｍ以上離してください。通気孔から５ｃｍ以内に、物などを置かないでください。内部に熱がこもり、やけどや火災の原因となることがあります。

通気孔をふさがない

●風通しの悪いところに置かない

製品を密閉された場所に置かないでください。熱がこもり、やけどや火災、故障の原因となることがあります。

風通しの悪い場所禁止

●温度が高くなるところに置かない

直射日光の当たるところや熱器具の近くなど､高温になるところに置かないでください。やけどや火災、故障の原因となることがあります。

温度が高い場所禁止

●お手入れのときは

本装置の本体が汚れた場合は、柔らかい布に水または中性洗剤を含ませ、よく絞ってから軽く拭いてください（絶対に、電源プラグやコネクタなどの接続部をこの方法で拭かないでください）。薬品類（ベンジン・シンナーなど）は使わないでください。変質・変色する場合があります。本体に接続されている電源プラグやコネクタなどの接続部のお手入れは、電源プラグやコネクタを抜いて、機器を傷つけないよう軽く乾拭きしてください。いずれの場合も、必ず本装置の電源プラグをコンセントから抜き､本装置に接続されている電源プラグやコネクタ類も全て抜いてから行なってください。感電や故障の原因となることがあります。

電源プラグを抜く

●湿気やほこりの多いところに置かない

湿気やほこりの多い場所や調理台、加湿器の近くなど、油煙や湯気があたるような場所に置かないでください。火災や感電の原因となることがあります。

湿気・ほこり禁止

注意

●逆さまに設置しない

本装置を逆さまに設置しないでください。また、布等でくるんだ状態での使用もおやめください。特に、ビニールやゴム製品が接触している状態での使用はおやめください。火災や故障の原因となることがあります。

逆さま禁止

●電源プラグとコンセントの定期点検を

電源プラグとコンセントは長時間つないだままでいると、ほこりやちりがたまり、そのままの状態で使用を続けますと、火災や感電の原因となることがあります。定期的な清掃をし、接触不良などを点検してください。

定期点検

●本装置は日本国内のみで使用

国外での使用は、電源電圧などの問題により、本装置が故障することがあります。

国内のみ使用

●不安定な場所やお子様の手の届く所には置かない

ぐらついた台や本装置より面積が小さいものの上や傾いた所、また衝撃や振動の加わる所など、不安定な場所やお子様の手の届く所に置かないでください。落ちたり倒れたりしてけがや故障の原因となります。

不安定な場所禁止

●ラジオやテレビなどのすぐ近くに置かない

ラジオやテレビなどのすぐ近くに置きますと受信障害を与えることがあります。

ラジオ、テレビの近く禁止

●データの保存について

データの通信を行なう際には、あらかじめデータのバックアップを取るなどの処置を行なってください。回線や本装置の障害によりデータを消失するおそれがあります。

バックアップ

●花びんやコップ、植木鉢、小さな金属物などを本装置の上に置かない

内部に水や異物が入ると、火災や感電の原因となります。万一、水などが内部に入ったときは、すぐに電源プラグをコンセントから抜いてください。

上にものを置かない

●踏み台にしない

本装置の上に乗らないでください。
倒れたりしてけがや故障の原因となることがあります。

踏み台禁止

目　次

第　１章　はじめに　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　9

1. 機能概要
2. 各部の名称と機能
3. DIP スイッチの設定
4. LED 表示について

第　２章　設置・取り付け　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　15

1. デスクトップへの設置
2. ラックへの取り付け
3. 固定方法

第　３章　初期設定　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　17

1. ユーティリティによる設定
2. ターミナルソフトによる設定
   ■シリアル通信のコマンド
3. TELNET による設定
   ■TELNET 通信のコマンド
   ■「&SAVE」コマンドについて
   ■プロンプトやコマンドについて

第　４章　制御ユーティリティ　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　27

1. お使いの前に
2. 接続
3. 制御と設定
   １）　機器の電源制御
   ２）　アウトレット状況
   ３）　システム情報
   ４）　機器の設定
   ５）　監視設定
   ６）　タイマ設定
   ７）　ネットワークの設定
   ８）　メールの設定
   ９）　ポーリングの設定
   10）　コマンド
   11）　通信中継
4. ポーリング
5. コールバック
6. メールからのコマンド
7. キーファイル
8. 中継機能

第　5 章　他の制御方法　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　47
1. TELNET 接続による制御
2. シリアルからの制御
3. モデムからの制御
第　6 章　ロギング機能　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　53
1. ロギング機能の設定・表示
■ログ制御変数のビット構成
■ログ表示コマンド
■ログの表示形式
■記録ログ一覧表
第　7 章　ネットワーク稼動監視　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　57
1. お使いになる前に
2. 使用方法
3. プログラムのための情報
第　8章　PPPoE の使用　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　63
1. PPPoE について
2. 設定について
3. 制御について
4. 動作について
第　9 章　仕様一覧　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　69

第１章
はじめに

1. 機能概要

本機には以下の機能があります。

1）4 個の 100ＶＡＣ電源を個別に制御/管理

2）通信による電源制御
- TELNET からの電源制御と設定
- 専用ソフト（暗号化）からの電源制御と設定
- PPPoE クライアントとしての接続に対応
- シリアル（COM）からの電源制御と設定

3）スケジュールによる制御
- 週間スケジュールによる電源制御

4）センター通知機能
- 電源状態と死活監視状態をセンターへ通知

5）通信中継機能
- TELNET クライアント、シリアルコンソールとして通信

6）各デバイスへの遅延電源投入
- 本体電源投入時に、指定した順番、タイミングによる各デバイスの起動

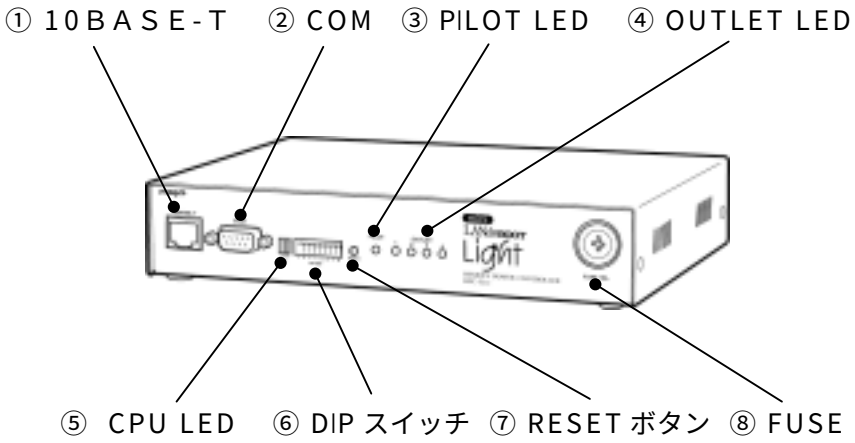
7）Ping による死活監視

8）メールによる制御や通知

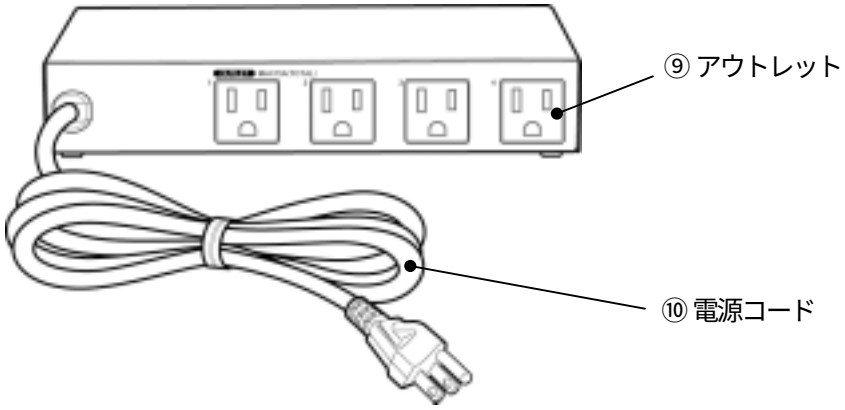
9）通信による遠隔バージョンアップ

2. 各部の名称と機能

フロントパネル



リヤパネル



① 10BASE-T	LAN ケーブル（8 ピン RJ45）を接続します。
② COM	初期設定用及び モデム・シリアル接続用通信ポートとして使用します。
③PILOT LED	本体に電源が投入されている場合に点灯します。
④OUTLET LED	AC アウトレットの電源出力状態を表示します。
⑤CPULED	CPU の通信状態を表示します。
⑥DIP スイッチ	初期設定、本体設定に使用します。
⑦ RESET スイッチ	出力電源に影響を与えずに CPU を初期化します
⑧ FUSE	ガラス管ヒューズ 15A を使用します。
⑨ AC アウトレット	デバイスの電源コードを接続します。
⑩電源コード	商用電源、UPS などに接続します。

3. DIP スイッチの設定

注意　DIP スイッチを操作するときは、本体の AC アウトレットから全デバイスを取り外してください。
DIP スイッチ操作また設定終了後は、必ず、本体前面の RESET スイッチを押してください。誤動作する恐れがあります。

DIP スイッチの機能（ＯＦＦは「上」、ONは「下」を意味します。）

NO.	状態	モード
1	OFF	シリアル・モデム運転モード
	ON	未使用
2	OFF	OFF に固定
	ON	未使用
3	OFF	運転モード
	ON	メンテナンスモード（初期設定）
4	未使用	常に上 (OFF)
5	未使用	常に上 (OFF)
6	未使用	常に上 (OFF)
7	未使用	常に上 (OFF)
8	未使用	常に上 (OFF)

DIP スイッチの設定

		1	2	3	4	5	6	7	8
初期設定時	OFF	■	■		■	■	■	■	■
	ON			■					
通常運転時	OFF	■	■	■	■	■	■	■	■
	ON								
モデム接続時	OFF	■	■	■	■	■	■	■	■
	ON								

4. ＬＥＤ表示について

本体には 3 種類のＬＥＤが装備されています。

1）ＬＥＤ
ＣＰＵの通信状態を表示します。

NO.	用　途	状　態	表 示
1	ＴＣＰ/ＩＰ通信状態	パケット受信時 パケット未受信時	点灯 消灯
2	ＣＰＵ 状態	ケーブル抜け PPPoE 接続、通常状態 PPPoE 接続，障害または復旧中 その他の状態	0.25 秒点灯、0.25 秒消灯 2　秒点灯、0.5 秒消灯 0.5　秒点灯、0.5 秒消灯 1　秒点灯、1　秒消灯

2）ＰＩＬＯＴ　ＬＥＤ
本体に電源投入されている場合に点灯します。

3）ＯＵＴＬＥＴ　ＬＥＤ
ＡＣアウトレットの電源出力状態を表示します。

ＯＮの場合　：　点灯
ＯＦＦの場合　：　消灯

第 2 章
設置・取り付け

1. デスクトップへの設置

以下の手順で設置します。

1）本体を設置場所に置きます。
設置場所は、単相１００ＶＡＣ/15Ａ以上のコンセントに直接差し込める場所で本体背面に電源プラグやコネクタが、差し込める位置であることを確認します。

2）本体前面の１０ＢＡＳＥ－ＴにＬＡＮケーブルを接続します。

3）本体の電源コードをコンセントに接続します。

注意　本装置を逆さまに設置しないでください。火災や故障の原因となることがあります。

2. ラックへの取り付け

以下の手順でラックに取り付けます。

1）ラック・キャビネットにプレートを取り付けます。
プレートはラックサイズに合った一般市販品をご用意ください。

2）ラック・キャビネットに本機を設置します。

3）本体前面１０ＢＡＳＥ－ＴにＬＡＮケーブルを接続します。

4）電源コードをコンセントに接続します。

3. 固定方法

本機固定のため設置用の穴があります。

底面についている設置用の穴（４箇所）を利用して機器を固定します。
取り付け用のねじは、Ｍ ３×８ Ｌ（MAX）をご利用ください。

第 3 章
初期設定

初期設定は、付属の設定ユーティリティソフト（Ｗｉｎｄｏｗｓ用）を利用します。

1. ユーティリティによる設定

設定ユーティリティソフトのインストール手順は添付 CD の README. txt を参照してください。設定用ＰＣと本機とは、付属 RS232C（クロス）ケーブルで接続します。設定ユーティリティソフトは Windows 対応ソフトです。それ以外の端末から設定する場合は、コンソールプログラムを利用して直接コマンド入力します。

1）本体前面の DIP スイッチ. 3 をＯＮ（下）にします。

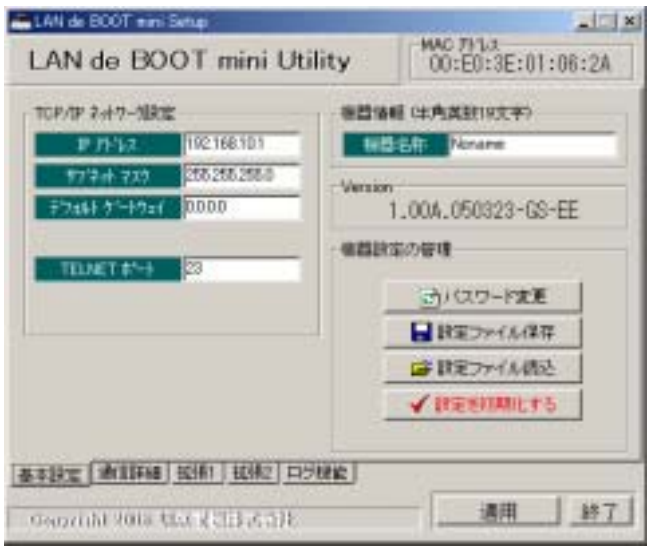
2）本体前面の RESET スイッチを押します。

3）設定ユーティリティソフトを起動します。パスワード画面が表示されます。
パスワード「magic」（デフォルト）を入力し、ＣＯＭポートを選択します。

パスワード画面

4）「接続」ボタンをクリックします。基本設定画面が表示されます。

基本設定画面



5）基本設定をします。

① TCP/ＩＰネットワーク設定

本機のネットワークに関する設定をします。

ＩＰアドレス	デフォルト	：	192.168.10.1
サブネットマスク	デフォルト	：	255.255.255.0
デフォルトゲートウェイ	デフォルト	：	0.0.0.0
TELNET ポート番号	デフォルト	：	23

② 機器情報

機器名称：本機に名称を付けます。本機を複数管理するときに便利です。
半角英数字で最大 19 文字まで指定できます。

③ Version　ROM バージョンの表示です。

④ 機器設定の管理

パスワード変更

「パスワード変更」ボタンをクリックします。パスワード変更画面が表示されます。
新しく設定するパスワードを２回入力し、「適用」ボタンをクリックします。
半角英数字で最大８文字まで指定できます。※細心の注意を払い管理してください。

デフォルト：　magic

パスワード設定画面

設定ファイル保存

適用、更新された全ての設定データが保存されます。
※「パスワードも保存しますか？」画面について
「はい」　選択　：全てのパスワードを保存します。
「いいえ」選択　：全てのパスワードを保存しません。

設定ファイル読込

保存された全ての設定データを読込みます。「適用」ボタンをクリックし、
読込んだデータを反映させます。初期設定、機能設定の全てが反映されます。

設定を初期化する
パスワードを含む全ての設定データをデフォルトに戻します。

6）通信詳細を設定します。
「通信詳細」のタグをクリックします。通信詳細画面が表示されます。

通信詳細画面

① TELNET 機能　telnet サーバー機能の有効/無効を設定します。

デフォルト：　有効

② DHCP 機能　　DHCP 機能の有効/無効を設定します。

デフォルト：　無効

③ BOOTP 機能　　BOOTP 機能の有効/無効を設定します。

デフォルト：　無効

④ uPassword　　制御ユーティリティのパスワードを設定します。
（半角英数字　31 文字）

デフォルト　　（1）権限　高　　：magic
（2）権限　中　　：magic
（3）権限　低　　：magic

8）拡張 1 の設定をします。
拡張のタグをクリックします。拡張 1 機能設定画面が表示されます。
モデムと COM の設定は本機 DIP スイッチ.1 が OFF のときのみ反映されます。

拡張１機能設定画面

① モデム設定

モデムを利用する場合にチェックします。

モデム無通信タイマー　：指定した時間内に、モデムへの通信が無い（無通信）場合に自動的に回線を切断します。

デフォルト　：10（分）

設定可能値　：1 以上

② COM 設定

Speed　：　通信速度を設定します。　デフォルト：38400 bps

Date Bit　：　データビットを設定します。　デフォルト：7

Stop Bit　：　ストップビットを設定します。　デフォルト：1

Parity　：　パリティを設定します。　デフォルト：None

※中継機能のシリアルコンソール利用時にも適用されます。

③ 監視情報設定

センターIP　：　監視情報送信先 IP アドレス　デフォルト：0.0.0.0

機器の ID　：　RPC-5LC を特定する ID　デフォルト：0

送信間隔　：　監視情報送信間隔（秒）　デフォルト：300

連続送信回数　：　電源変化時の連続送信回数（回）　デフォルト：3

連続送信間隔　：　上欄連続送信時の間隔（0.1 秒）　デフォルト：10

④NTP サーバー

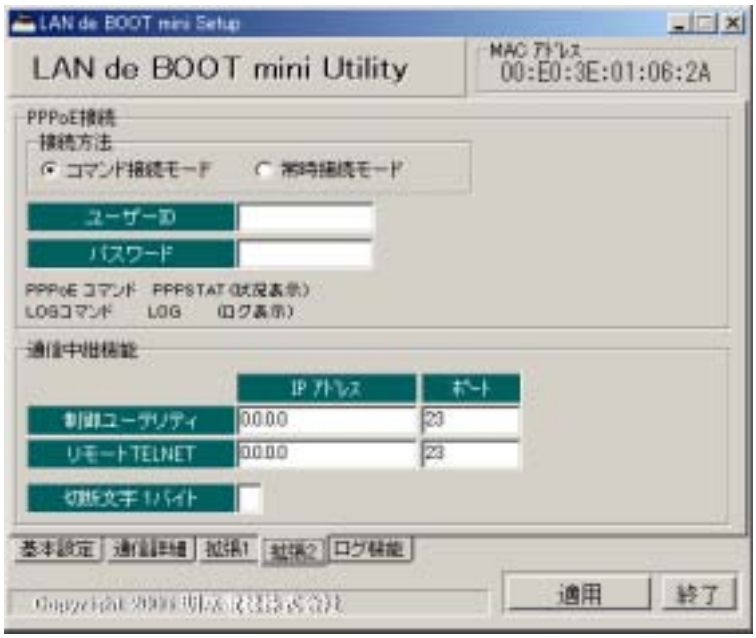
NTP サーバー　：　NTP サーバーのアドレス　デフォルト：0.0.0.0

⑤コマンド送信

コマンドを選択し、詳細な設定ができます。

9）拡張 2 の設定をします。
拡張 2 のタグをクリックします。拡張 2 機能設定画面が表示されます。

拡張 2 機能設定画面



① PPPoE 設定

接続方法　コマンド接続か常時接続かを選択します。

ユーザーID　　：　指定されたユーザーID を入力します。

パスワード　　：　指定されたパスワードを入力します。

※PPPSTA や LOG コマンドで接続を確認できます。「第 13 章　PPPoE の使用」を参照

② 通信中継機能設定

制御ユーティリティ　ＩＰアドレス　：制御ユーティリティから中継する、TELNET サーバーのアドレス

ポート　：制御ユーティリティから中継する、TELNET サーバーのポート

リモート TELNET　ＩＰアドレス　：TELNET から中継する、TELNET サーバーのアドレス

ポート　：TELNET から中継する、TELNET サーバーのポート

切断文字 1 バイト　：中継通信を切断する文字「空」の場合は、切断文字無しとなります。

10）ロギング機能の設定をします。
※詳しくは P.73「第 7 章 ロギング機能」参照

ロギング機能設定画面

① 記録
ログを取る項目にチェックを入れます。

② 表示
表示させる項目にチェックを入れます。

10）画面右下にある「適用」ボタンをクリックし、設定内容を有効化します。

> **注意**　設定変更後は、必ず「適用」ボタンのクリックをしてください。
> 「適用」ボタンのクリックがないと、設定内容は反映されません。

11）画面右下にある「終了」ボタンをクリックします。

12）本体前面の DIP スイッチ.3 をOFF（上）に戻します。

13）本体前面の RESET スイッチを押します。

以上で初期設定は完了です。

2. ターミナルソフトによる設定

1）本体前面の COM ポートと設定用 PC のＣＯＭポートを付属ケーブルで接続します。

2）ターミナルソフトを起動し、ポート設定をします。

通信速度	：	38400bps
データビット	：	7 ビット
ストップビット	：	1 ビット
パリティ	：	なし

3）本体前面の DIP スイッチ.3 を、ＯＮ（下）にし、RESET スイッチを押します。設定プログラムが起動し、下図が表示されます。

```
――― SNMP Agent System Configuration Utility ―――
     Password:
```

4）パスワード（デフォルト：magic）を入力し、〈Enter〉キーで実行します。
プロンプト「＞」が表示されます。

5）設定します。
コマンドや変数などを入力し＜Enter＞キーで実行します。

6）設定内容を有効化します。
「：w」コマンドを入力し、＜Enter＞キーを押します。

> 注意　設定変更後は、必ず「：w」コマンドを実行してください。
> コマンドがないと設定が反映されません。

7）設定終了後、ターミナルソフトを閉じます。

8）本体前面の DIP スイッチ.3 をＯＦＦ（上）に戻し、RESET スイッチを押します。

■シリアル通信のコマンド

コマンド	内　　容
：r	現在のメモリー内容を表示する
：w	設定内容をメモリーに書き込む
：e	エコーバックの ON/OFF 切替え
変数名	変数の値を表示します。
変数名＝値	変数を設定し、設定された変数を表示します。

※変数については P.92「■変数一覧表」参照

3. TELNET による設定

1)「スタート」から「ファイル名を指定して実行」を選択し、テキストボックスを開きます。

2）以下のように指定し、本機にアクセスします。

デフォルトの場合
ＩＰアドレス　　：192.168.10.1
TELNET ポート番号　　：23

「telnet__192.168.10.1__23」
※アンダーバーはスペースを表します。

> **注意**　必ず TELNET ポート番号を指定してください。
> TELNET ポート番号を指定しないとアクセスできません。

3）プログラムが起動し、下図のとおり表示されます。
「Noname」は機器名称の設定が反映されます。

```
220 LAN de BOOT (Noname) server ready
```

4） 任意のキーを入力します。パスワードが要求されます。

5）パスワードを入力し、＜Enter＞キーで実行します。「OK」の応答があります。

6）設定します。コマンドや変数などを入力し＜Enter＞キーで実行します。
（ＩＰアドレスなど一部の設定は CPU リセット後に反映されます。）

■TELNET 通信のコマンド

コマンド	内　　容
LIST	全ての変数の値を表示します。
WRITE	変数の設定を FROM に書き込みます。
&SAVE	設定された変数の待避・復元ができるデータを出力します。
LOAD_BEGIN	設定データの読み込みを始めます。
LOAD_END	設定データの読み込みを終了します。
?変数名	変数の値を表示します。（※4）
.変数名＝値	変数を設定し、設定された変数を表示します。
CPURESET	CPU をリセットします。（電源状態は変化しません。）

※変数については P.70「■変数一覧表」参照

■「&SAVE」コマンドについて

環境（変数全体）を一括して待避・復元するためのコマンドです。

「&SAVE」を実行すると、最初に「LOAD_BEGIN」、それに続いて一連の変数設定コマンド、最後に「LOAD_END」を出力します。これをファイルに保存し、のちにファイルから入力すると、そのときの設定になります。パスワードなど、いくつかの変数は保存されません。ファイルをテキストエディタで変更することもできます。なお、「&SAVE」は、エコーバックがありません。変数設定コマンドでは、エラーがあっても無くても表示しません。長いコマンドは分割されます。最後にハイフンがあると、次に継続することを意味します。ファイルからのコマンドを実行するときは、「promptMode」を 0 または 1 とします。

■プロンプトやコマンドについて

TELNET からアクセスしたときは、コマンド入力のプロンプトが表示されます。プロンプト表示の有無または表示形式は、コマンドで指定します。制御ユーティリティでは、常に「＞」のプロンプトが表示されます。また、「?」だけのコマンドにより、ヘルプとしてコマンドの一覧を表示します。どのコマンドでも最初に「&」をつけることによりエコーバックが無くなります。制御ユーティリティの場合は、画面にはコマンドが表示されますが、ファイルには書き出されません。ファイル書き出し中に例えば「&POS」とすると、TELNET では「1101」といった応答だけが書き出されますが、制御ユーティリティでは応答も書き出されません。設定の取得、書き込みのときは、「promptMode」を 0 または 1 とします。

変数名　：　promptMode
値　：　0（プロンプト表示無し）
：　1（「＞」のプロンプト表示 ）
：　2（「 機器名＞」のプロンプト表示 ）

■シリアルコマンドについて

ディップスイッチが全部上（OFF）の状態においては、ＴＥＬＮＥＴと同じコマンドが利用できます。通信パラメーターは変数により変更可能です。

変数名	内容	**初期値**
rs232Port1Speed	シリアルポート通信設定（×100BPS）	384
rs232Port1Bits	シリアルポート通信設定（ビット）	7
rs232Port1StopBits	シリアルポート通信設定	1
rs232Port1Parity	シリアルポート通信設定 （0：無し　1：奇数　2：偶数）	0

第 4 章
制御ユーティリティ

1. お使いの前に

設定ユーティリティを利用し、制御ユーティリティ用のパスワードを設定します。
パスワードには３つのレベルがあり、権限を制限できます。

１）通信詳細画面 uPassword 欄の（1）から（3）にパスワードを入力します。
半角英数字で３１文字まで指定できます。

通信詳細画面（設定ユーティリティ）

デフォルト　(1)権限　高　：　magic
(2)権限　中　：　magic
(3)権限　低　：　magic

■権限について

レベル	変数名	権限の内容
(1)権限 高	uPassword1	：電源制御、状態取得、各種設定変更、コマンド使用
(2)権限 中	uPassword2	：電源制御、状態取得、各種設定変更
(3)権限 低	uPassword3	：電源制御、状態取得

２）適用ボタンをクリックします。

2. 接続

1）制御ユーティリティを起動します。(Ver.1.30 以上を使用)

初期画面

① 接続アドレス

接続する本機のＩＰアドレスと制御ユーティリティのポート番号またはドメイン名を入力します。制御ユーティリティのポート番号はコマンドで変更できます。

ポート番号「9000」デフォルトの場合　　「192.168.10.1」
ポート番号「500」に設定した場合　　「192.168.10.1：500」

② 接続アドレスボタン

一度接続されたＩＰアドレスを最大８個まで記憶します。記憶が複数になると、「接続アドレス」のラベルがボタンになります。ボタンをクリックしてＩＰアドレスのリストを表示させます。リストから接続するＩＰアドレスを選択します。また、アドレスを削除する場合は、削除するアドレスを選択し、BackSpace キーを押します。

③ パスワード

接続する本機の制御ユーティリティ用パスワードを入力します。

④ パスワードを記憶

チェックを入れるとパスワードを記憶します。

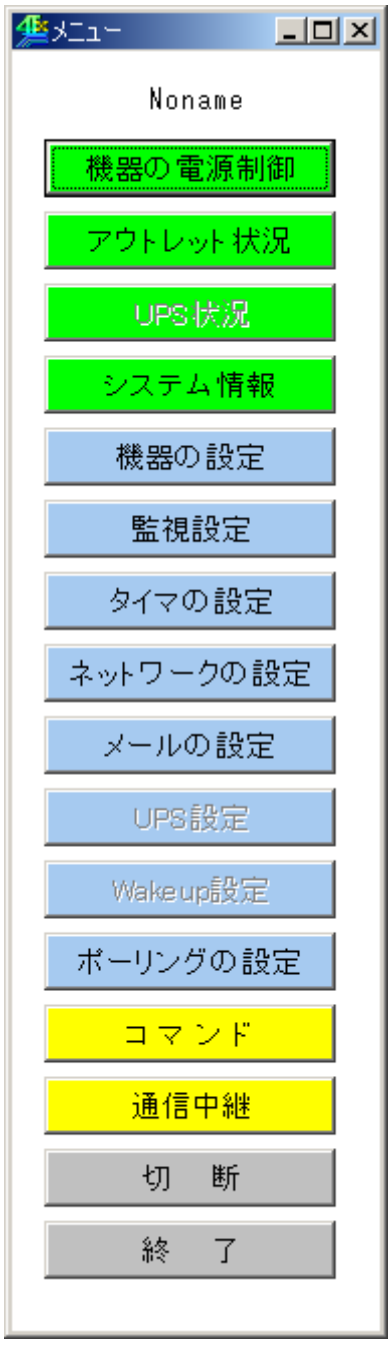
⑤ ネームサーバアドレス

ドメイン名の場合はネームサーバアドレスも入力します。

注意　同時に複数の PC からアクセスできますが、同じ設定画面を開くことはできません。一度、設定画面を開くと、その画面だけ閉じても、切断するまでは同じ画面を開くことはできません。

2）接続をクリックします。本機に接続され、メニュー画面が表示されます。

メニュー画面



機器の電源制御
各アウトレットの電源 ON/OFF を行います。

アウトレット状況
死活監視の状態を表示します。

ＵＰＳ状況
RPC-5LC では、利用できません。

システム情報
各種設定情報を表示します。

機器の設定
本機の名前、また各アウトレットの名前や遅延時間などを設定します。

監視設定
死活監視の設定を行います。

タイマ設定
週間スケジュールを設定します。

ネットワークの設定
各種ネットワークの設定を行います。

メールの設定
メールの送受信に関する設定を行います。

UPS 設定
RPC-5LC では、利用できません。

Wakeup 設定
RPC-5LC では、利用できません。

ポーリングの設定
ポーリングをする設定を行います。

コマンド
コマンド制御や設定情報の取得変更を行います。

通信中継
TELNET クライアント機能やシリアルコンソール機能を利用します。

切断
通信を切断します

終了
制御ユーティリティを終了します。

3. 制御と設定

1）機器の電源制御

機器の電源制御画面

①電源状態と遅延時間

現在の電源の状態を表します。
表示された遅延時間後に次の状態に変化します。
（更新されないと最新の状態が表示されません。）

②個別アウトレット制御の動作

ＯＮ　　：　電源出力を開始します。
ＯＦＦ　：　電源出力を設定されたシャットダウン遅延時間後に停止します。
【反映される機能】
・Shutdown(シャットダウン遅延時間)
ＲＥＳＥＴ：　電源出力を設定されたシャットダウン遅延時間に関係なく直ちに停止し、設定されたリブート時間後に開始します。
【反映される機能】
・Reboot（リブート時間）

③ 全アウトレット制御の動作

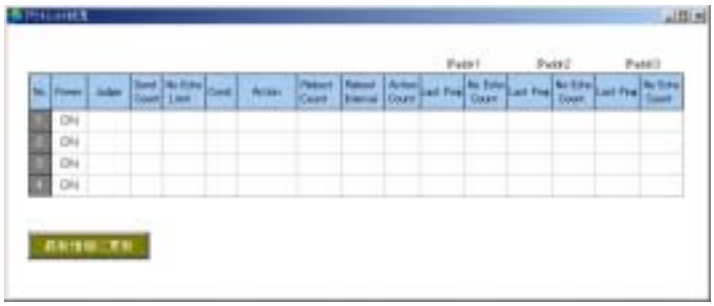
ＯＮ　　：　全アウトレットの電源出力を設定された電源出力開始遅延時間後に開始します。
【反映される機能】
・PowerON（電源出力開始遅延時間）
ＯＦＦ　：　全アウトレットの電源出力を設定されたシャットダウン遅延時間後に停止します。
【反映される機能】
・Shutdown(シャットダウン遅延時間)
ＲＥＳＥＴ：　全アウトレットの電源出力をシャットダウン遅延時間に関係なく直ちに停止し、設定された再起動時間後に開始します。
【反映される機能】
・PowerON（電源出力開始遅延時間）
・再起動時間

③ 最新情報に更新

最新の電源状態を取得します。

2）アウトレット状況
アウトレットの監視状況を表示します。

アウトレット状況画面



① Power ： 電源の状態を表示します。

② Judge ： 監視の判定結果を表示します。

正常	無応答状態が Action を起こす条件に達していない状態
異常	無応答状態が Action を起こす条件に達している状態
回復中	無応答状態が Action を起こす条件に達していないものの、いずれかの IP アドレスからの応答が無い状態

③ Send Count ： 設定された送信回数を表示します。

④ No. Echo Limit ： 設定された無応答回数を表示します。

⑤ Cond. ： 設定された条件数を表示します。

⑥ Action ： 設定された Action の内容を表示します。

⑦ Reboot Count ： 設定された再リブート回数を表示します。

⑧ Reboot Interval ： 設定された再リブート間隔を表示します。

⑨ Action Count ： 実行された Action の回数を表示します。

⑩ Last Ping ： 最新 Ping の応答結果を表示します。

⑪ No Echo Count ： Ping の無応答回数を表示します。

⑫ 最新の情報に変更 最新の状態を取得します。

3）システム情報

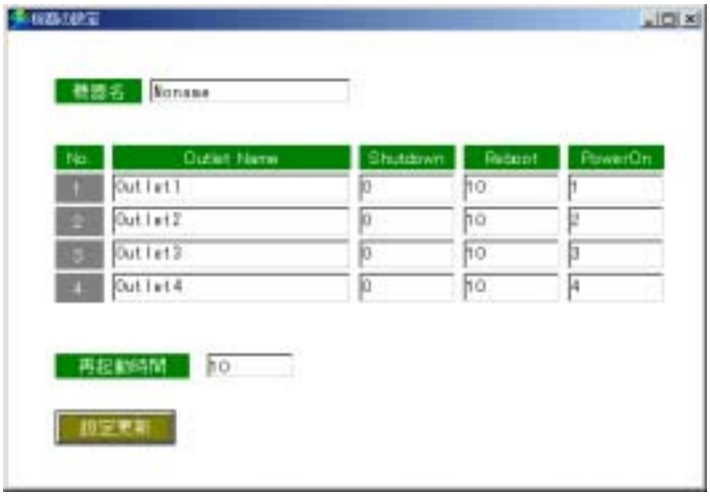
設定したシステム情報を表示します。

システム情報画面

４）機器の設定

電源制御に関する設定をします。

機器設定画面



① 機器名　：　機器名称を設定します。本機に名前をつけることができます。半角英数字 19 文字以内で指定します。複数の本機を一括管理する場合に便利です。

② Outlet Name　：　各アウトレットに名前をつけ、接続されたデバイスを識別します。半角英数字２０文字以内で指定できます。

③ Shutdown　：　各アウトレットの電源出力を停止する際の遅延時間（シャットダウン遅延時間）を設定します。この時間は以下の操作を行う際に適用されます。

・個別 Outlet 制御のＯＦＦ操作
・全 Outlet 制御のＯＦＦ操作

デフォルト　：３０
設定可能値　：-１～３６００（秒）
「-１」：ＯＦＦ操作使用不可。RESET 操作のみ可能。
「０」：即座に電源出力停止。
「１～３６００」：指定した遅延時間経過後出力停止。

④ Reboot　：　各アウトレットの電源出力を停止・起動する際の OFF 時間を設定します。この設定により、接続された任意のデバイスに最適なリブート時間を確保できます。この時間は以下の操作を行う際に適用されます。
注）シャットダウン遅延時間は反映されません。

・個別 Outlet 制御の RESET 操作

デフォルト　：１０
設定可能値　：８～３６００（秒）

⑤ PowerOn　：　本体電源投入時、全アウトレット ON 時、全アウトレット RESET 時の、各アウトレットが電源出力を開始するまでの時間を設定します。この設定により、指定したタイミングで各アウトレットの電源出力を開始させることができます。この時間は以下の操作を行う際に適用されます。

・本体電源投入時
・全 Outlet 制御のＯＮ操作
・全 Outlet 制御の RESET 操作

デフォルト　：No.1-1　No.2-2
No.3-3　No.4-4
設定可能値　：-1 ～ 3600（秒）
「 -1 」：自動で電源出力を開始しません。
「 0 」：即座に電源出力を開始します。
1～3600：指定した遅延時間経過後、出力開始。

⑥ 再起動時間　：　全アウトレット RESET 時に全アウトレットの出力を停止してから再出力するまでの時間を設定します。この時間は以下の操作を行う際に適用されます。
注）シャットダウン遅延時間は反映されません。

・全 Outlet 制御の RESET 操作

デフォルト　：10
設定可能値　：8～3600（秒）

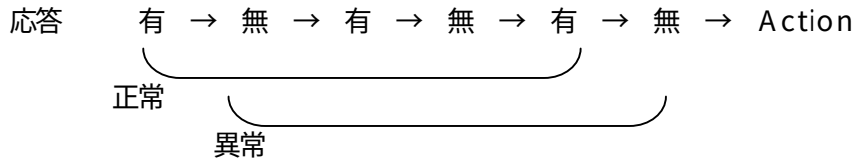
⑦ 設定更新　：　設定を更新します。

注意　設定後は必ず設定更新ボタンをクリックしてください。設定更新ボタンのクリックがないと設定は更新されません。ご注意ください。

５）監視設定

アウトレット毎に、死活監視を設定します。最大 3 つの IP アドレスに対して、PING を送信することができます。PING は１分間隔（デフォルト）で送出され、設定した送信回数内に、設定した無応答回数があった場合に異常と判定します。異常と判断された IP アドレスが設定条件（１～３）に達すると、処理（Action）を実行します。

IP アドレス死活監視の判定例）　送信回数：5　無応答：3　の場合



注意　応答のない状態が続いた場合は、約 1 時間毎に設定された Action を実行します。再度、条件が成立しても Action は 1 時間に 1 度しか実行しません。監視設定した全てのデバイスから応答があると最初の状態に戻ります。（変数 debOlRebootCount が 2 以上の時は、Action を設定回数繰り返します。初期値：１）

（PING の送信先について）

ルーターを監視する場合、LAN 側の IP アドレス、WAN 側の IP アドレス ダウンすることの少ないネット上のサーバーなどを監視対象にすることができます。3 つのうち、幾つの IP アドレスが異常になった時にリセットするかは、「Cond」の項目で設定できます。

監視設定画面

① IPaddr1　：　監視するＩＰアドレスを設定します。
各アウトレットに 3 個まで設定できます。

② IPaddr2　：　監視するＩＰアドレスを設定します。

③ IPaddr3　：　監視するＩＰアドレスを設定します。

④ Send Count　：　Ping の無応答回数を数える送信回数を設定します。

デフォルト　：１０
設定可能値　：１～１００

⑤ No Echo Limit　：　送信回数内で異常と判定する Ping の無応答回数を設定します。

デフォルト　：１０
設定可能値　：１～１００

⑥ Cond　：　Action を実行させるための異常ＩＰアドレスの数を設定します。

デフォルト　：１
設定可能値　：１～３

⑦ Action　：　Action を選択します。

NoPing　：監視機能停止
NoAction　：処理なし
Reset　：リブート(電源リセット)
PowerOn　：電源ＯＮ
PowerOff　：電源ＯＦＦ

⑧ Reboot Count　：　Aciton 後、無応答状態の時に再リブートする回数を設定します。

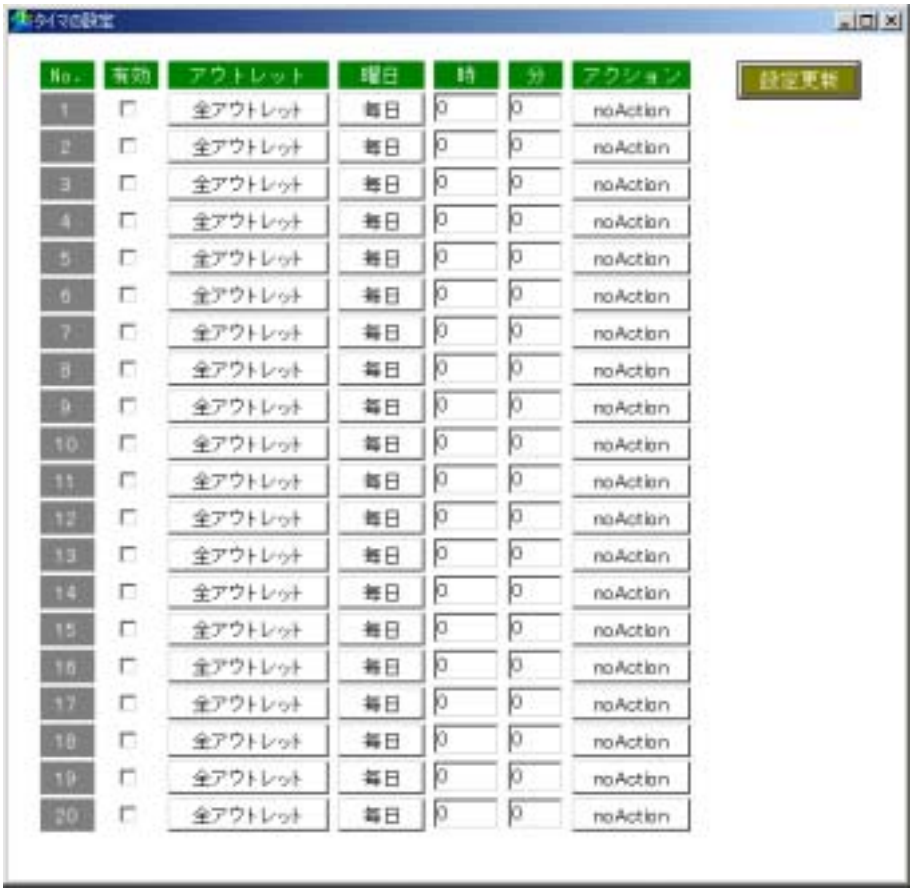
⑨ Reboot Interval　：　Aciton 後、無応答状態の時に再リブートする間隔を設定します。（PING の送信間隔より短い値は、PING の送信間隔と等しくなります。）

⑩ 無応答検出時間（秒）：　Ping への応答待ち時間を設定します

⑪ 送信間隔（分）　：　Ping の送信間隔を設定します。

⑫ 設定更新　：　設定を更新します。

6）タイマ設定



① 有効　　：　設定したタイマの有効/無効
② アウトレット No.　：　制御するアウトレット No.
③ 曜日　　：　実行する曜日（毎日または指定曜日）
④ 時　　：　実行する時間
⑤ 分　　：　実行する分
⑥ アクション　　：　実行する動作
⑦ 設定更新　　：　設定を更新します。

7）ネットワークの設定
各種ネットワークを設定します。

ネットワーク設定画面

①	ＩＰアドレス	：	ＩＰアドレスを設定します。
②	ネットマスク	：	ネットマスクを設定します。
③	デフォルトゲートウエイ	：	デフォルトゲートウエイを設定します。
④	ＤＮＳサーバーアドレス	：	ＤＮＳサーバーアドレスを設定します。
⑤	ＮＴＰサーバーアドレス	：	ＮＴＰサーバーアドレスを設定します。
⑥	システムの設置場所	：	システムの設置場所を設定できます。
⑦	連絡先	：	連絡先を設定できます。
⑧	ＳＮＭＰ	：	ＳＮＭＰは利用できません。

※共通設定の変更後は必ず本体前面の RESET スイッチを押してください。

8）メールの設定

メール設定画面

ユーザー名、パスワード、メールアドレス、POP サーバ名、SMTP サーバ名は、プロバイダからのメール資料に基づき設定します。

① 外部メールアドレス
監視機能で異常時および復旧時にメールを送信するアドレスを設定します。
メールからのコマンド機能とコールバック機能が許可されます。

② APOP を使用
印をつけると APOP が有効になります。

③ アクション通知先
印をつけるとアクション時にメールが通知されます。
異常時（Outlet * Reset)、復旧時（Outlet * Recovered）

④ メールからのコマンド
許可、禁止を設定します。

⑤ コールバック
許可、禁止かを設定します。

⑥ 自動ログアウト時間（分）
メールからの制御のタイムアウトを設定します。
デフォルト　　：　10
設定可能値　　：　1～60

⑦ メールチェック間隔（分）
メールをチェックする間隔を設定します。メールサーバによってはあまり短い間隔だとエラーになることがあります。ご注意ください。
デフォルト　　：　3
設定可能値　　：　1～60

9）ポーリングの設定

本機より指定したＩＰアドレスに対してポーリングを行います。

ポーリングの設定画面

① PC アドレス１～8

ポーリングの対象とする PC のアドレスを設定します。アドレスは、ＩＰアドレスでもドメイン名でも指定できますが、ドメイン名を指定するときは、「ネットワークの設定」画面で、ネームサーバアドレスも設定します。

② PC ポート

ポート番号は、PC に外部からアクセスするポート番号です。同じ PC に対して複数の本機がポーリングを行う場合は、それぞれ異なるポート番号を設定します。

③ ポーリング

機能の許可・禁止を設定します。

10）コマンド

コマンドの送受信や、ファイルの作成、送信ができます。

コマンド画面

① コマンドの送受信

コマンドを直接入力し、< Enter >キーで実行します。

② ファイルに記録

コマンドの送受信の結果を記録するファイルの作成または選択をします。

③ 新規書き出し

「ファイルに記録」で作成したファイルにコマンドの結果を記録します。

③-1.「ファイルに記録」をクリックし、記録するファイルを選択します。

③-2.「新規書き出し」をクリック後、コマンドの送受信をします。

③-3.「書き出し停止」をクリックします。送受信の結果が記録されます。

④ 追加書き出し

「新規書き出し」で作成したファイルに追加記録します。

④-1.「ファイルに記録」をクリックし、追加記録するファイルを選択します。

④-2.「追加書き出し」をクリック後、コマンドの送受信をします。

④-3.「書き出し停止」をクリックします。送受信の結果が追加記録されます。

⑤ 書き出し停止

ファイルへの書き出しを停止する場合に選択します。

⑥ ファイル読み込み

ファイル選択画面でファイルを選択し本機へ転送を開始します。

⑦ 読み込み停止

本機への転送中、クリックすると転送を中止します。

11）通信中継

ＴＥＬＮＥＴクライアント機能やシリアルコンソール機能を利用します。

通信中継画面

① ＩＰアドレス、ポート

接続するＴＥＬＮＥＴサーバーのＩＰアドレスとポートを設定します。

② 接続、切断

ＴＥＬＮＥＴクライアントとしてＴＥＬＮＥＴサーバーに接続します。

③ シリアル開始、シリアル終了

シリアルコンソールとしての通信を開始、終了します。

④ 新規書き出し

「ファイルに記録」で作成したファイルにコマンドの結果を記録します。

「コマンド」参照

⑤ 追加追加書き出し

「新規書き出し」で作成したファイルに追加記録します。

「コマンド」参照

⑥ 書き出し停止

ファイルへの書き出しを停止する場合に選択します。

⑦ ファイル読み込み

ファイル選択画面でファイルを選択し本機へ転送を開始します。

⑧ 読み込み停止

本機への転送中、クリックすると転送を中止します。

4. ポーリング

ポーリング機能は、本機が定期的に PC の制御ユーティリティに接続を試みる機能です。本機が、インターネットには接続できても外部からはアクセスできないような環境にあるときポーリング機能が役に立ちます。
制御ユーティリティで「ポーリングの設定」が必要です。ご確認ください。

1）初期画面で、「ポーリング」ボタンをクリックします。
ポーリング画面になります。

2）PC のポート番号を設定して「待機」ボタンをクリックします。
本機からのポーリングを待機します。数秒～１分で接続します。

5.コールバック

コールバック機能は、本機から PC の制御ユーティリティに接続を試みることを、メールによって PC の制御ユーティリティから要求する機能です。ポーリングと違って、PC のアドレスが固定できない場合にも使えます。

本機の「メール設定」と「ネットワークの設定」の「共通設定」が必要です。ご確認ください。外部メールアドレスに登録されていないアドレスはコールバックできません。

1）初期画面で、「コールバック」ボタンをクリックします。
コールバック画面になります。

2）「PC のメール環境」ボタンをクリックします。
PC のメール環境を設定します。

3）接続したい本機のメールアドレスと、PC のアドレスおよび、ポート番号を指定します。PC のアドレスは、ＩＰアドレスでもドメイン名でもかまいません。ポート番号は、外部からの番号（グローバル）と、内部の番号（ローカル）の両方を指定します。ポーリングで設定したポートとは異なっていなければなりません。

4）「メール送信」ボタンをクリックします。

5）制御ユーティリティの制御画面が表示されます。

6.メールからのコマンド

メールからコマンドを実行できます。
メールのタイトルは特に必要ありません。コマンドの「LIST」と「&SAVE」は使えません。「メールの設定」と「ネットワークの設定」の「共通設定」が必要です。ご確認ください。メールチェック間隔も「メールの設定」画面で設定できますが、メールサーバによってはあまり短い間隔だとエラーになることがあります。ご注意ください

1）本機に設定されたメールアドレスの本文に「LOGIN」と入力し送信します。
「メールの設定」で登録された外部メールアドレスに限りコマンドを受け付けます。

2）本機のメールから ID 番号が送られてきます。

3）本文の最初の行にその ID 番号を入力します。2 行目からコマンドを入力し、送信します。

4）結果が送られてきます。

5）「QUIT」コマンドでログアウトします。
「Q」または「E」の１文字だけでもログアウトします。

7.キーファイル

セキュリティのために、キーファイルが使われます。制御ユーティリティで本機に初めてアクセスすると、自動的に固有のキーコードが生成され、本機に設定されると共に、ＰＣの制御ユーティリティと同じフォルダ内にキーファイルが作られます。ファイル名は、RPC４L.KYF です。これ以後は、このファイルが無いとアクセスできません。他のＰＣで制御ユーティリティを使う場合は、このファイルもコピーする必要があります。初期設定で、キーコードの変数名は「keyCode」です。キーチェックの変数名は「keyCheck」です。変数「1」（デフォルト）の値を「0」にすると、キーのチェックは行いません。

8.中継機能

LAN デブートライトから、他の機器へ中継通信する際に、大量のデーターを受信すると内部にデーターの滞留が生じ、データーが抜けて発生することがあります。一度に受信するデーターは、概ね 40K バイト以下でご利用ください。また、制御ユーティリティから、「ファイルの読み込み」を利用して、データーを送信する場合は、一度に 1 行ずつしか送信しません。送信後に、レスポンスが帰ってくると、次の行を送信します。TELNET 接続の場合は、この限りではありません。

第 5 章
他の制御方法

1. TELNET 接続による制御

本機は TELNET サーバプログラムへ接続して、遠隔から電源制御および状態取得ができます。セキュリティ制御の設定がされている場合はその制限内での操作となります。

1）TELNET による接続

①「スタート」から「ファイル名を指定して実行」を選択し、テキストボックスを開きます。

② 以下のように指定し、本機にアクセスします。

デフォルトの場合
ＩＰアドレス　　：192.168.10.1
TELNET ポート番号　：23

「telnet__192.168.10.1__23」
※アンダーバーはスペースを表します。

③ プログラムが起動し、下図のとおり表示されます。

```
220 LAN de BOOT (Noname) server ready
```

2）ログインしないで制御する方法
パスワードとコマンドを組み合わせて実行します。

基本機能
・個別電源操作（ON/OFF/RESET）
・全アウトレット電源操作（ON/OFF/RESET）
・電源状態取得

① 制御コマンドを以下のように構成し、< Enter >キーで実行します。

制御コマンド構成
＊○○○○○○○○＃××××ｎ

○○○○○○○○　：　パスワード
××××　　：　制御コマンド
ｎ　　：　アウトレット番号　1～4

例）アウトレット 4 番をリブートします。（パスワード：magic）
＊magic＃por4

3）ログインして制御する方法

基本機能
- ・個別電源操作（ON/OFF/RESET）
- ・全アウトレット電源操作（ON/OFF/RESET）
- ・電源状態取得
- ・電源状態取得（詳細）
- ・バージョン表示
- ・パスワード変更

① 接続後、任意のキーで入力します。パスワードが要求されます。

② パスワードを入力し＜Enter＞キーで実行します。「OK」の応答があります。

③ 制御コマンドを入力し＜Enter＞キーで実行します。

```
        220 LAN de BOOT (Noname) server ready
password:
OK
```

■制御コマンド一覧表

制御コマンド	内　容
MPON	全アウトレットの電源出力開始
MPOF	全アウトレットの電源出力停止
MPOR	全アウトレットのリブート（電源リセット）
PONn	指定されたアウトレットの電源出力開始 ｎ＝1～4
POFn	指定されたアウトレットの電源出力停止 ｎ＝1～4
PORn	指定されたアウトレットのリブート（電源リセット） ｎ＝1～4
POS	全アウトレットの電源状態取得 応答：mmmm 左側からアウトレット１～４ ｍ＝0：OFF　1：ON
XPOS	全アウトレットの電源状態詳細の取得 応答：ABXXXX, ABXXXX, ABXXXX, ABXXXX 左側からアウトレット１～４ A=0：OFF　1：ON B=0：シャットダウン遅延中　1：ON 遅延中 XXXX=B のタイマ残り時間

VER	バージョンの表示
OLSn	死活監視状態の表示　n＝1～4 コンマ区切りで表示。 Outlet No.　アウトレット番号[1～4] Power　電源状態[0：Off　1： On] Judge　判定[1：正常　2：異常　3：回復中] Action Count　Action 実行回数 Last Ping1　アドレス１の最後の応答[1：正常　2：異常] No Echo Count1　アドレス１の未応答回数 Last Ping2　アドレス 2 の最後の応答[1：正常　2：異常] No Echo Count2　アドレス 2 の未応答回数 Last Ping3　アドレス 3 の未応答回数 No Echo Count3　アドレス 3 の未応答回数
PASS	パスワードの変更 新しいパスワードを 2 回入力します。 ※入力を失敗すると変更されません。
TELNET	IpAdTelnetT のアドレス、remoteTelnetPortT のポートに TELNET クライアントとして接続します。 DiscChar に設定した文字を入力すると切断終了する。
SERIAL	COM に接続された機器とシリアル通信を行う。 通信パラメーター (変更時は CPURESET が必要) rs232Port1Speed　12,24,48,96,144,192,288,384 rs232Port1Bits　7,8 rs232Port1Parity　0（無し)、1（奇数)、2（偶数） rs232port1Stop　1,2 (初期値　384/7/0/1) DiscChar に設定した文字を入力すると切断終了する。 一度に受信するデーターは、概ね 40K バイト以下でご利用ください。
EXIT	回線切断 ※最初の文字が E, e, Q, q の場合は EXIT と認識します。

※「XPOS」「VER」「PASS」などいくつかのコマンドははログイン時のみ有効です。

■応答コマンド

正常受付	：	Command OK
不正なコマンド	：	Unrecognized command
前コマンドの処理中のためコマンド実行せず	：	Last command is pending. Command failed.

2. シリアルからの制御

シリアルポートからコマンド入力で電源制御ができます。

1）設定ユーティリティソフトで COM 設定をします。
※詳しくは P.21「8」拡張 1 の設定をします。」参照

2）本体前面の DIP スイッチ.1 を OFF（上）にします。

3）本体前面の COM とパソコンの COM を付属の RS232C（クロス）ケーブルで接続します。

4）ターミナルソフトを起動し、ポート設定をします。

5）制御コマンドを入力し＜Enter＞キーで実行します。
コマンドは「1.telnet 接続による制御」と共通です。
※詳しくは P.49「■制御コマンド一覧表」参照
※PASS コマンドは利用できません。
※EXIT コマンドには応答のみ返します。

3. モデムからの制御

モデム経由で電源制御ができます。

1）設定ユーティリティソフトでモデム設定・COM 設定をします。
※詳しくは P.21「8」拡張 1 の設定をします。」参照

2）本体前面の COM とモデムをストレートケーブルで接続します。

3）遠隔地のモデムから接続します。

4）接続されるとパスワードが要求されます。

5）パスワードを入力します。コマンド入力状態になります。

6）制御コマンドを入力し、＜Enter＞キーで実行します。コマンドは「2.telnet 接続による制御」と共通です。
※詳しくは P.49「■制御コマンド一覧表」参照
※PASS コマンドは利用できません。

第 6 章
ロギング機能

1. ロギング機能の設定・表示

デバイスの監視やその他のイベントログを 1000 件記録します。1000 件を超えると古いログから消去します。記録されたログは、コマンドで表示できます。

> **注意**　本体電源が切断された場合または本体前面の RESET スイッチが押された場合、ログと記録時間がリセットされます。

1）設定ユーティリティによる設定
「ログ機能」タグにある画面を利用して設定します。

2）TELNET およびターミナルソフトによる設定と表示
記録モード・表示モードの設定及び記録されたログの表示は、コマンドを入力し＜Enter＞キーで実行します。ログインして制御する方法で操作します。

変数はシリアル、TELNET 共通です。値については次項「■ログ制御変数のビット構成」を参照してください。

① 記録モードの変数名とコマンド

変数名　：　logMode　　コマンド　：　.logMode

② 表示モードの変数名とコマンド

変数名　：　logDisp　　コマンド　：　.logDisp

接続中の表示のみを変更するコマンド
（通信が終了すると「logDisp」の値に戻ります。）

コマンド　　：　LOGDISP

■ログ制御変数のビット構成
値は最下位を 0 ビットとし、16 ビットの構成になっています。

0：無、1：有

ビット		ビット	
15	： モデムログイン・ログアウト	7	： ユーティリティログイン・ログアウト
14	： モデム接続・切断	6	： ユーティリティ接続・切断
13	： TELNET ログイン・ログアウト	5	： 電源障害等
12	： TELNET 接続・切断	4	： 電源制御コマンド
11	： 未使用	3	： 未使用
10	： 未使用	2	： ping 監視によるイベント
9	： メールログイン・ログアウト	1	： ping 無応答
8	： メール不正アクセス	0	： ping 送信

TELNET 通信による設定例

・ping 監視によるイベント、電源制御コマンド、電源障害のログを記録する場合

.logMode=0000000000110100 （デフォルト）

・全て表示する場合

.logDisp=1111111111111111（デフォルト）

・接続中に「Telnet ログイン」と「接続」だけ表示とする場合

LOGDISP=0011000000000000

■ログ表示コマンド

コマンド	内　　容
LOG	ログの表示（連番号順）
LOG n	ログの表示（最新ｎ個）
LOGB	ログの表示（逆連番号順）
LOGTIME	e = t　　ログ開始からの経過秒＝現在時刻 e0 = t0　NTP 接続までの経過秒＝最初の取得時刻 NTP 無効の場合はｅのみ表示
LOGCLEAR	ログのクリア
LOGCLEAR T	ログのクリア及び記録時間のリセット

ログの表示数は 20 項目です。

＜Enter＞キーで続きの 20 項目を表示します。

※TELNET などで複数の同時アクセスはお止めください。

誤動作、誤表示の原因となります。

■ログの表示形式

nnn ttt a b xxxxxxxx c

Nnn	:	連番号
Ttt	:	NTP 無効時：記録開始からの時間
yy.mm.dd hh:mm:ss	:	NTP 有効時：年月日時分秒
A	:	アウトレット番号
B	:	PING 送信先番号（1～3 番）
Xxxxxxxx	:	イベント
c	:	ＩＰアドレス

■記録ログ一覧表

監視設定に基づくイベント（記録・表示のモード設定があります。）	
Ping	ping 送信
No Echo	ping 無応答
監視設定（Action）に基づくイベント	
No Action	処理なし
Reset	電源リセット
On	電源 ON
Off	電源 OFF
Send Trap	SNMP トラップ送信
電源制御によるイベント	
MPON	全アウトレットの電源出力開始
MPOF	全アウトレットの電源出力停止
MPOR	全アウトレットのリブート（電源リセット）
PON	指定されたアウトレットの電源出力開始
POF	指定されたアウトレットの電源出力停止
POR	指定されたアウトレットのリブート（電源リセット）
アクセスによるイベント	
--> Telnet	Telnet アクセス
==> Telnet	Telnet ログイン
<== Telnet	Telnet ログアウト
--> Uty	ユーティリティ接続
==> Uty	ユーティリティログイン
<== Uty	ユーティリティログアウト（切断）
<-- Uty	ログインしないで切断
MAIL,MODEM の接続、ログインなどもこれに準じます	
PPPoE によるイベント	
PPPoE Connect	接続した。IP アドレスも表示。
PPPoE Disconnect	切断した。
PPPoE Disconnected	切断された。
PPPoE Modem Down	ノットレディになった
PPPoE Modem Up	レディになった
PPPoE Continue	接続状態に戻った
PPPoE IP Link Release	IP リンクが開放された
mode に関係のない表示	
Mail Error	メール送信エラー
NTP Server Access Error	NTP サーバー接続エラー。 ３回続けて失敗した場合。
NTP --- hh:mm:ss	NTP サーバー接続

第 7 章
ネットワーク稼動監視

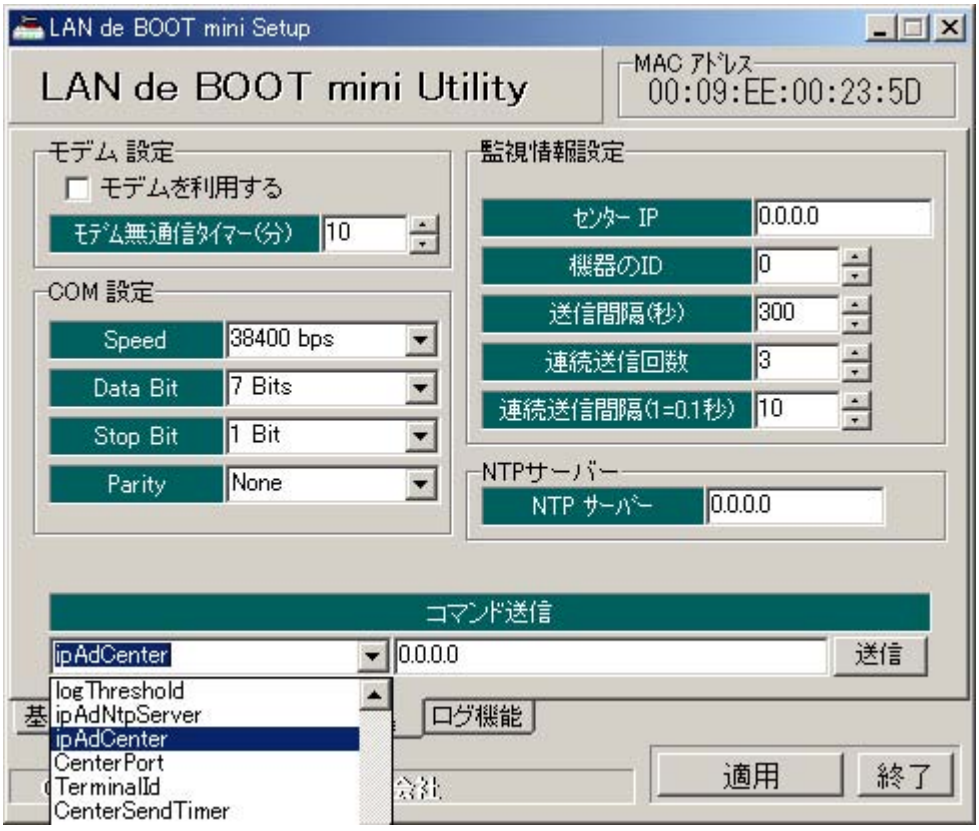
1. お使いになる前に

設定ユーティリティソフトにより、稼動監視に必要な情報を設定します。
※設定ユーティリティソフトの利用方法に関しては、P21「拡張 1 の設定をします。」参照

各 LAN デブート　ライトに対して、稼動監視に必要な情報を設定します。
コマンド送信からプルダウンで変数を選択し、数値を設定します。

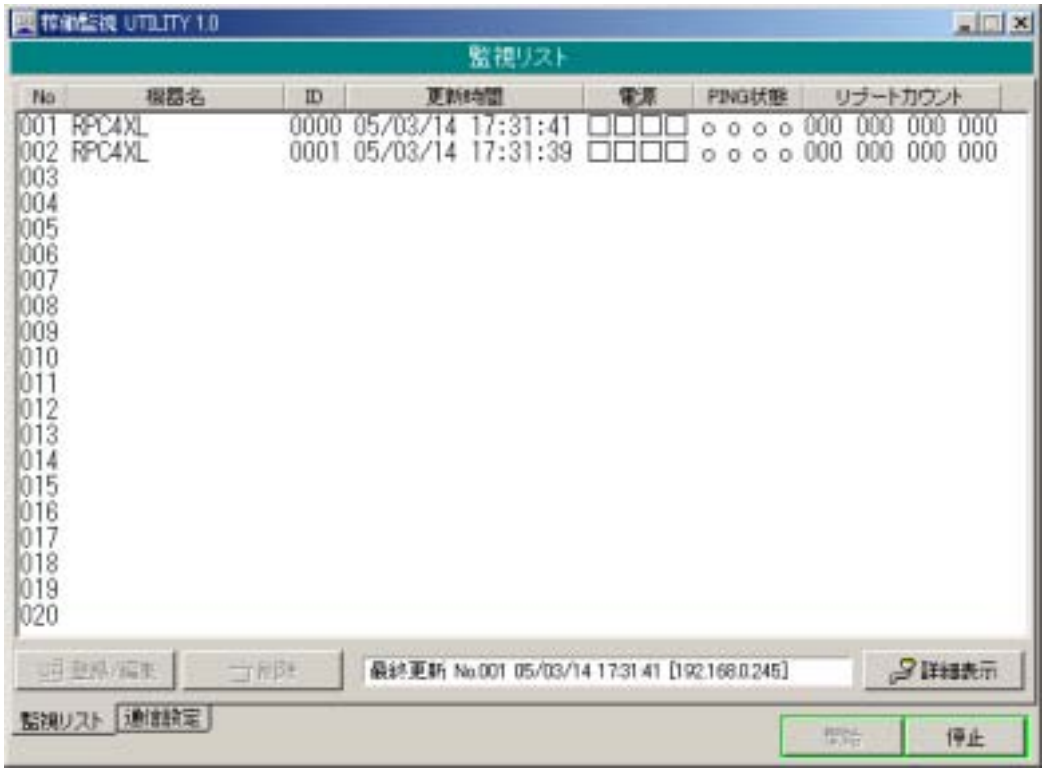
1）センターの IP アドレス　　ipAdCenter=0.0.0.0
2）センターのポート　　CenterPort=5000
3）LAN デブート　ライトの ID　　TerminalId=0
4）送信間隔　　CenterSendTimer=300（秒）
5）電源状態が変化した時の送信間　　CenterChangeSendTimer=10（100ms）
6）電源状態が変化した時の送信回数　CenterChangeSendCount=3

適用ボタンをクリックします。



２．使用方法

１）稼動監視ユーティリティを起動します。（監視リスト画面）



① ＩＤ　　：各ＬＡＮデブートライトに設定した ID 毎に状態を取得。
※ID が重ならないように各ＬＡＮデブートライトを設定してください。
② 名前　　：ID 毎に任意の名前を付ける。
③ 更新時間　：最後にパケットを受け取った時刻を表示。
④ 電源　　：電源状態を表示。
□ON　■OFF　左から右へアウトレット１から４
⑤ PING 監視状態：監視の判定結果を表示。
ＯＫ正常　ＮＧ異常　ＲＥ回復中　-- 登録無し
⑥ リブートカウント　：Action を実行した回数を表示。
左から右へ監視 IP アドレス１から４
⑦ 新規登録　：新しいＬＡＮデブートライトからの情報を登録。
⑧ 編集　　：設定情報を変更。
⑨ 削除　　：登録を削除。
⑩ 詳細表示　：選択したＬＡＮデブートライトの詳細情報を表示。
各監視 IP アドレスの状態表示
接続ボタンによる TELNET 接続
直接電源制御できます。

2）通信設定を行います。（通信設定画面）
受信する UDP のポートを設定。

3）新規登録／編集
① ID 番号：ＬＡＮデブートライトに設定した ID を設定。
② IP アドレス：センター側から接続する時に使用する
IP アドレスを設定。
③ ポート：ＬＡＮデブートライト側の TELNET のポート番号を設定。

注意　稼動監視ユーティリティの詳細および最新情報につきましては、
弊社ホームページHTTP://www.meikyo.co.jpをご覧ください。

３．プログラムのための情報

以下の情報を送信しています。

（ア）電源状態：XPOS と同じ内容

（イ）死活監視状態：制御ユーティリティのアウトレット状況と同じ

（ウ）シャットダウンインタフェース状態：CS、CD、ER（未使用）

（エ）UPS 状態：CS、CD、ER（未使用）

```
struct {
        short  Command;
        short  Bcc;
        short  TerminalId;                  /* 変数 TerminalId の値 */
        short  PacketCounter;
        struct {
                short  Status;
                short  OnOff;
                short  Counter;
        } xpos[4];
        struct OlStatus {
                short  Power;
                short  Judge;
                short  SendCount;
                short  NoEchoLimit;
                short  Cond;
                short  Action;
                short  RebootCount;
                short  RebootInterval;
                short  ActionCount;
                struct {
                        short  LastPing;
                        short  NoEchoCount;
                } IpAddr[3];
        } OlStatus[4];
        struct {
                short  CS;
                short  CD;
                short  ER;
        } ShutdownIF[4];
        struct {
                short  CS;
                short  CD;
                short  ER;
        } UpsIF;
} x;
```

第 8 章
PPPoE の使用

1. PPPoE について

本機は PPPoE を搭載しています。通信事業者の PPPoE サーバーに対する、
PPPoE クライアントとして、ご利用いただけます。

2. 設定について

PPPoE 機能をご利用いただくために、以下の変数をご用意しています。
変数の変更は、コマンドから行います。（26，27，53P 参照）
また、◎の変数は設定ユーティリティのメニューから設定を行えます。

◎pppMode　　1: 常時接続モード　0: コマンド接続モード（初期値 0）
◎pppUserId　　ユーザ ID
◎pppPassword　　パスワード
　pppMyMru　　自局側 MRU（初期値 1454）
　pppNoReplyInterval　　無応答判定時間（秒、初期値 2）
　pppConnectInterval　　常時接続リトライ間隔（秒、初期値 30）
　pppReconnectInterval　自動再接続間隔（秒、初期値 5：フレッツ仕様では 5 以上）
　pppLcpEchoInterval　　LCP のエコー送信間隔（秒、初期値 30）
　pppLcpEchoCount　　LCP リンク解放までの無応答回数（初期値 10）
　pppIcmpEchoInterval　ICMP のエコー送信間隔（秒、初期値 0）
　pppIcmpEchoCount　　IP リンク解放までの無応答回数（初期値 5）
　pppLogMode　　1: 接続・解放等のログを記録　　0: 記録しない（初期値 1）

3. 制御について

PPPoE 機能をご利用いただくために、以下のコマンドをご用意しています。

PPPCONN　接続動作を開始
　　pppUserId と pppPassword が設定されていて、かつ初期状態なら動作を
　　開始し Command OK と表示する。そうでなければ Command failed と
　　表示する。
PPPDISC　　切断動作を開始
　　常に Command OK と表示する。初期状態なら何もしない。
PPPSTAT　　状態表示
　　常時接続モードでも、コマンドを使用できる。

4. 動作について

PPPoE 機能ご利用時の動作を説明します。

常時接続モード（pppMode＝1）

・立ち上げ時に pppUserId と pppPassword が設定されていれば、自動的に接続動作を開始します。接続が不成功なら pppConnectInterval の間隔でリトライを続けます。
・接続後、通信中に切断された場合は、pppReconnectInterval 後に接続をリトライします。
・PPPDISC コマンドで切断した場合は、PPPCONN コマンドを実行しない限り接続動作は開始しません。この PPPCONN コマンドによる接続が不成功でも、リトライはしません。

リセット時の動作

・接続時に CPU リセット（ウォームスタート）を行うと、自動的に切断します。常時接続モードであれば、その後あらためて接続動作を開始します。

DNS サーバアドレス取得

・IPCP 接続手順で取得したアドレスを変数 ipAdDnsServer に自動的に設定します。

LED の表示

・ケーブル抜け状態　　0.25 秒点灯、 0.25 秒消灯
・PPPoE 接続、通常状態　　2　秒点灯、 0.5 秒消灯
・PPPoE 接続、障害または復旧中　　0.5 秒点灯、 0.5 秒消灯
・その他の状態　　1　秒点灯、 1　 秒消灯

状態表示

・PPPSTAT コマンドでは、フェーズ（p）とサブフェーズ（s）を、p-s として表示します。
　例：モデムの電源が入っていないときに接続動作を開始すると、Discovery フェーズで PADO 待ちになる。PPPSTAT 1-1
　例：タイムアウトとリトライを繰り返した後、初期フェーズに戻るが、状態表示は次のようになる。PPPSTAT 0,1-1 これは 1-1 の状態で接続が不成功となり、初期フェーズになったことを示します。

・1-3 と 3-3 は、状態としては存在しません。PPPSTAT 0,のあとに続く表示としてだけ用いられます。例えば、PPPSTAT 0,3-3 となったら、認証失敗を示します。

・接続フェーズでは、等号に続けて IP アドレスも表示します。

各状態の説明

フェーズとサブフェーズの組み合わせで状態が決まります。

フェーズ

0: 初期フェーズ
1: Discovery フェーズ
2: LCP フェーズ
3: CHAP フェーズ
4: IPCP フェーズ
5: 接続フェーズ
6: 切断フェーズ

サブフェーズ

各フェーズごとに定義されます。（初期フェーズと切断フェーズには存在しません）

Discovery フェーズ
0: 初期
1: PADI 送信、PADO 待ち
2: PADR 送信、PADS 待ち
3: PADS エラー
4: リンク確立

LCP フェーズ、IPCP フェーズ
0: 初期
4: Closing
6: Req-Sent　Config-Req 送信、Config-Ack 待ち、Config-Req 待ち
7: Ack-Rcvd　Config-Req 送信、Config-Ack 受信、Config-Req 待ち
8: Ack-Sent　Config-Req 送信、Config-Req 受信、Config-Ack 送信、
Config-Ack 待ち
9: リンク確立

CHAP フェーズ
0: 初期
1: Challenge 待ち
2: Result 待ち
3: エラーResult
4: OK

接続フェーズ
0: 通常
1: 障害
2: 復旧中

モデム・回線の監視

モデムには、以下の状態があります。

・ノットレディ　　電源オフ、または投入直後
・初期
・接続
・IP リンク解放

モデムは通常は、初期状態か接続状態にありますが、接続状態中に、通信ができなくなることがあります。この場合は、接続手順を行って再接続を行います。
また、接続状態中にモデムの電源をオフにし、再度オンにすると、接続状態に戻るときと初期状態になるときとがあります。（オフの時間が長いと初期状態になります）

無応答判定

無応答判定時間[変数 pppNoReplyInterval]は、以下の場合に適用します。

・PADI に対する PADO 待ち
・PADR に対する PADS 待ち
・LCP,ICPC で Config-Req に対する Config-Ack,Config-Nak 待ち
・LCP,ICPC で Config-Req 待ち
・LCP,ICPC で Term-Req に対する Term-Ack 待ち
・LCP で Echo-Req に対する Echo-Reply 待ち
・CHAP チャレンジ待ち
・CHAP リザルト待ち

接続中は、pppLcpEchoInterval の間隔で LCP エコー要求を送って、ノットレディでないか監視しています。pppNoReplyInterval 以内に応答が無いとその時点で再び送信します。無応答が pppLcpEchoCount の回数に達するとノットレディと見なします。ノットレディと見なすと、接続手順を開始できるか（レディになったか）をチェックします。接続手順を開始できるようになったとき（具体的には PADI に PADO が返ってきたとき）、あらためて LCP エコー要求を送る。応答があれば、接続状態に戻ったと見なします。応答が無ければ、接続手順を開始し、再接続します。（ただし常時接続モードでなければ、再接続はしません）

接続中に、pppIcmpEchoInterval の間隔で ICMP エコー要求を送って、IP リンクが解放されていないか監視できます。無応答が pppIcmpEchoCount の回数に達すると、IP リンク解放と見なし、常時接続モードなら再接続を行います。初期値は pppIcmpEchoInterval が 0 ですので、ICMP エコー要求は送りません。

LCP エコーと ICMP エコーを除いては、リトライ回数は 3 になっています。

ログ記録

変数 pppLogMode=1 の場合は、以下のものがログに記録されます。

PPPoE Connect	接続した。IP アドレスも表示
PPPoE Disconnect	切断した
PPPoE Disconnected	切断された
PPPoE Modem Down	ノットレディになった
PPPoE Modem Up	レディになった
PPPoE Continue	接続状態に戻った
PPPoE IP Link Release	IP リンクが解放された

第 9 章
仕様一覧

■変数一覧表

変数名	変数の説明	デフォルト
uPassword1	制御ユーティリティのパスワード （1）権限　高（P57 参照）	“magic”
uPassword2	制御ユーティリティのパスワード （2）権限　中（P57 参照）	“magic”
uPassword3	制御ユーティリティのパスワード （3）権限　低（P57 参照）	“magic”
serialNo	未使用（serialNo）	“”
keyCode	制御ユーティリティ用　キーコード	“”
keyCheck	キーチェック （0：チェックしない　1：する）	1
extPassword	未使用	“”
sysServices	未使用	64
ifNumber	未使用	1
ifIndex	未使用	1
IfType	未使用	6
ifSpeed	未使用	10000000
ifOutQLen	未使用	0
ipAdEntBcastAddr	未使用	1
IfMtu	未使用	1500
ifAdminStatus	未使用	1
ifOperStatus	未使用	1
ipForwarding	未使用	2
ipDefaultTTL	未使用	32
ipReasmTimeout	未使用	30
ipAdEntAddr	ＩＰアドレス	192.168.10.1
IpAdEntNetMask	ネットマスク	255.255.255.0
ipAdEntReasmMaxSize	未使用	1500
IpRouteDest	デフォルトゲートウエイ	0.0.0.0
ipRouteMask	未使用	0.0.0.0
ipNetToMediaType	未使用	3
netArpEntry	未使用	8
netBootpRetry	ＢＯＯＴＰリトライ回数	0
netRarpRetry	ＲＡＲＰリトライ回数	0
netUdpEntry	未使用	8
netTcpTimeout	ＴＣＰタイムアウト(秒)	6000
telnetEnabled	TELNET の有効化（0：無効　1：有効）	1
telnetPort	TELNET のポート番号	23
utilityPort	制御ユーティリティのポート番号	9000
loadPort	ＦＷロードプログラムのポート番号	9100
dhcpEnabled	DHCP の有効化（0：無効　1：有効）	0
debugMode	未使用	0
model	モデル名	RPC-5L
rs232Port1Speed	シリアルポート通信設定（×100BPS）	384
rs232Port1Bits	シリアルポート通信設定（ビット）	7
rs232Port1StopBits	シリアルポート通信設定	1
rs232Port1Parity	シリアルポート通信設定 （0：無し　1：奇数　2：偶数）	0
debWdogTimeout	未使用	510
sysContact	連絡先	“info@meikyo.co.jp”
sysName	機器名称	“Noname”
sysLocation	設置場所	“Nowhere”

debMasterRebootTime	全アウトレットリセット時の OFF 時間(秒)	10
debTcpInactiveTimer	未使用	10
debOlTableSize	未使用	4
debOlPowerOnTime	アウトレット ON 時間（秒）	1,2,3,4
debOlShutdownTime	アウトレット OFF 遅延時間（秒）	0,0,0,0
debOlRebootTime	アウトレットリセット時の OFF 時間（秒）	10,10,10,10
debOlWdogAddr	死活監視ＩＰアドレス	0.0.0.0,0.0.0.0,0.0.0.0,0.0.0.0,0.0.0.0,0.0.0.0,0.0.0.0,0.0.0.0,0.0.0.0,0.0.0.0,0.0.0.0,0.0.0.0,0.0.0.0,0.0.0.0,0.0.0.0,0.0.0.0
debOlWdogSendMax	監視機能　送信回数設定	10,10,10,10
debOlWdogNoResMax	監視機能　無応答回数設定	10,10,10,10
debOlWdogActCond	異常監視対象の数設定	1,1,1,1
debOlWdogAction	死活監視アクション設定	-
debOlRebootCount	再リブート回数	1,1,1,1
debOlRebootInterval	再リブート間隔（分）	1,1,1,1
debOlNoEchoInterval	監視設定画面の無応答検出時間（秒）	5
debOlPingInterval	アウトレットの ping 送信間隔（分）	1
pingInterval2	アウトレット毎の ping 送信間隔変更（分）（4 個）0 の場合は上段の値となる。	
debOlName	アウトレット名	“Outlet1,Outlet2 Outlet3,Outlet4”
schEnabled	スケジュールの有効化（20 個）1：有効	
SchDay	スケジュール曜日（20 個） 毎日:空　月:1 火:2 水:3 木:4 金:5 土:6 日:7	
schHour	スケジュール時間（20 個）	
schMinute	スケジュール分　（20 個）	
schOutletNo	スケジュールアウトレット（20 個） 全:空　1:1 2:2 3:3 4:4	
SchAction	スケジュールアクション（20 個） NoAction：0　Reset：1 powerOn：2　powerOff：3	
ipAdDnsServer	ネットワークの設定画面のネームサーバアドレス（変数名が変わりました。）	0.0.0.0
mailUserName	メール名設定	“”
mailPassword	メールパスワード設定	“”
mailAddr	メールアドレス設定	“”
mailPopServer	POP 設定	“”
mailSmtpServer	SMTP 設定	“”
extMailAddr1	送信先アドレス１	“”
extMailAddr2	送信先アドレス２	“”
extMailAddr3	送信先アドレス３	“”
extMailAddr4	送信先アドレス４	“”
extMailAddr5	送信先アドレス５	“”
extMailAddr6	送信先アドレス６	“”
extMailAddr7	送信先アドレス７	“”
extMailAddr8	送信先アドレス８	“”
mailInfoFlag	メール情報フラグ（メール送信有効化）4 桁	-
mailCommandEnabled	メールコマンド有効化（0：無効　1：有効）	0
mailLogoutTime	メールログアウト時間（分）	10
mailCheckInterval	メールチェック間隔（分）	3
mailApopEnabled	APOP の有効化（0：無効　1：有効）	0
pollingPcAddr1	ポーリング PC　ＩＰアドレス	“”
pollingPcAddr2	ポーリング PC　ＩＰアドレス	“”
pollingPcAddr3	ポーリング PC　ＩＰアドレス	“”
pollingPcAddr4	ポーリング PC　ＩＰアドレス	“”

pollingPcAddr5	ポーリング PC　ＩＰアドレス	“”
pollingPcAddr6	ポーリング PC　ＩＰアドレス	“”
pollingPcAddr7	ポーリング PC　ＩＰアドレス	“”
pollingPcAddr8	ポーリング PC　ＩＰアドレス	“”
pollingPcPort	ポーリング PC　ポート	-
pollingDeviceNo	未使用	0
pollingEnabled	ポーリング有効化（0：無効　1：有効）	0
callbackEnabled	コールバック有効化（0：無効　1：有効）	0
promptMode	TELNET プロンプトモード	2
modemEnabled	モデム（0：禁止、1：許可）	0
modemTimeout	モデムタイムアウト時間（分）	10
logMode	ログ記録モード（16 ビット）	0000 0000 0011 0100
logDisp	ログ表示モード（16 ビット）	1111 1111 1111 1111
mailLogCount	メールで送信するログの数 0：無効　最大値 20	0
mailLogDisp	メール送信するログモード（16 ビット）	1111 1111 1111 1111
ipAdNtpServer	NTP サーバーのアドレス	0.0.0.0
ipAdCenter	監視情報送信先のアドレス	0.0.0.0
CenterPort	監視情報送信先のポート番号	5000
TerminalId	監視情報につける機器の ID	0
CenterSendTimer	監視情報送信間隔（秒）	300
CenterChangeSendTimer	状態変化時に監視情報を連続して送信するときの送信間隔（100 ミリ秒）	10
CenterChangeSendCount	状態変化時に監視情報を送信する回数	3
MyMode	シリアルモード　0：標準 1：未使用	0
confirmEnabled	未使用	0
statusEnabled	未使用	1
ipAdTelnetT	TELNET による接続後、中継機能により TELNET でアクセスする機器の IP アドレス	0.0.0.0
ipAdTelnetU	制御ユーティリティによる接続後、中継機能により TELNET でアクセスする機器の IP アドレス	0.0.0.0
remoteTelnetPortT	TELNET による接続後、中継機能により TELNET でアクセスする機器のポート	23
remoteTelnetPortU	制御ユーティリティによる接続後、中継機能により TELNET でアクセスする機器のポート	23
discChar	中継機能利用中に通信を切断する 1 文字	“”
pppMode	PPPoE 常時接続モード　（0：無効、1：有効）	0
pppUserId	PPPoE ユーザーID	“”
pppPassword	PPPoE パスワード	“”
pppMyMru	自局側 MRU	1454
pppNoReplyInterval	無応答判定時間（秒）	2
pppConnectInterval	常時接続リトライ間隔（秒）	30
pppReconnectInterval	自動再接続間隔（秒）	5
pppLcpEchoInterval	LCP のエコー送信間隔（秒）	30
pppLcpEchoCount	LCP リンク解放までの無応答回数	10
pppIcmpEchoInterval	ICMP のエコー送信間隔（秒）	0
pppIcmpEchoCount	IP リンク解放までの無応答回数	5
pppLogMode	接続・解放等のログを記録	1

■仕様一覧表

通信仕様	LAN通信仕様		ARP,TCP/IP,UDP/IP,ICMP,MD5,BOOTP, DHCP,FTP,TELNET,SMTP,POP,NTP, PPPoE
	LAN制御方法		TELNET
			TCP/IPユーティリティ
			E-mail
機能	電源制御／管理		電源ON
			電源OFF
			リブート
			電源状態取得
	タイマー		週間（20個）
	遅延時間設定		電源ON遅延時間
			電源ＯＦＦ遅延時間（シャットダウン時間）
			リブート時間
	状態監視		Ping送信
			Mail 通知
			自動電源制御
ハード仕様	インターフェース		10Base-T×1（IEEE 802.3に準拠）
			RS-232C×1(Dsub9ピンオス)
	定格	最大制御出力	100V AC　15A　（1500W）
		消費電力	最大 5.8W
		入力電源電圧	AC100V±10% (50/60Hz)
	使用環境		温度 5～40℃
			湿度 20～85%（ただし結露なきこと）
	外形寸法		220(W)×45(H)×170(D)mm
	重量		1.8ｋｇ
安全規格	特定電気用品認証品（電気用品安全法）		

■状態遷移表

状態	1	2	3	4	5	6	備考
電源状態	ON	ON	ON	OFF	OFF	OFF	
ON time / OFF time	無 / 無	有 / 無	無 / 有	無 / 無	有 / 無	無 / 有	
MPON	OK	Failed	Failed	OK	Failed	Failed	他のアウトレットが処理中の場合も不可
	2	-	-	5	-	-	
MPOF	OK	Failed	Failed	OK	Failed	Failed	他のアウトレットが処理中の場合も不可
	3	-	-	6	-	-	
MPOR	OK	Failed	Failed	OK	Failed	Failed	他のアウトレットが処理中の場合も不可
	5	-	-	5	-	-	
PON	OK	Failed	Failed	OK	OK	OK	
	-	-	-	1	1	3	
POF	OK	Failed	OK	OK	Failed	Failed	
	3	-	備考 2	-	-	-	
POR	OK	OK	OK	OK	OK	OK	
	5	5	5	5	備考 2	5	
備考 1		TIME UP で「1」へ	TIME UP で「4」へ		TIME UP で「1」へ	TIME UP で「1」へ	
備考 2			OFFtime リスタート		Ontime → RESET time		

Failed ：Last command is pending. Command Failed

ご注意

（1）　本書及び製品の内容の一部または全部を無断で複写複製することは禁じます。

（2）　本書及び製品の内容については、将来予告なしに変更することがあります。

（3）　本書及び製品の内容については、万全を期して作成いたしましたが、万一ご不審な点や誤り、記載漏れなどお気づきの点がありましたら、ご連絡ください。

（4）　本製品を運用した結果の影響については、（3）項にかかわらず責任を負いかねますのでご了承ください。

（5）　本製品がお客様により不当に使用されたり、本書の内容に従わずに取り扱われたり、または弊社及び弊社指定のもの以外の第三者により修理・変更されたこと等に起因して生じた障害などにつきましては、責任を負いかねますのでご了承ください。

（6）　弊社指定以外のオプションを装着してトラブルが発生した場合には、責任を負いかねますのでご了承ください。

Windows95、Windows98、WindowsME、WindowsNT、Windows2000、WindowsXP は Microsoft Corporation の登録商標です。
「ｉモード」及び「i-mode」ロゴはＮＴＴドコモの商標または登録商標です。
その他、記載の会社名及び製品名は、各社の商標または登録商標です。

LAN・デ・ブート　ライト　　ＲＰＣ-5LC
取扱説明書　　第　2.0　版
版権所有　明京電機株式会社　2005 年 4 月

YSOL
YS Solutions Co., Ltd.

ワイエス・ソリューションズ株式会社

本社：　〒102-0083　東京都千代田区麹町2-4　麹町鶴屋八幡ビル2階
TEL:03-5212-3521（代）　FAX:03-5212-3524

大阪営業所：〒532-0011 大阪市淀川区西中島5-10-15　西武新大阪ビル611
TEL:06-4806-7088（代）　FAX:06-6300-0122

E-mail:info@ysol.co.jp　URL:http://www.ysol.co.jp